

1. 単元名 『過去-現在-未来をつなげる Man-you-syu』
～万葉集に関わる地名マップづくりを通して～

2. 単元の目標

- 万葉集に関わる地名や万葉集が地名の由来となった場所があるということを知り、その分布や根拠などについて理解することができる。 (知識及び技能)
- マップにどのような情報を掲載するかを考え、地名が詠まれている万葉歌の概要や作者の思いを相手に伝えることができる。 (思考力・判断力・表現力等)
- 万葉集のすばらしさに触れ、万葉集に関わる地名について、自ら進んでカードやマップを作成しようとしている。 (学びに向かう力・人間性等)

3. 単元について

(1)教材観

万葉集には様々な分野があり、その種類は膨大である。その中で万葉集を地理学的な視点から学ぶことができる教材として、本単元は地名に着目した。全ての日本人には住所があり、地名をもっている。だから、地名に着目することは全ての生徒に関係することである。万葉歌にはいくつもの地名が詠まれており、その万葉歌が詠まれる前から元々あった地名が歌で詠まれている。このように万葉歌で詠まれた地名を万葉故地という。この万葉故地は日本全国に多く存在している。

そこで、本単元では万葉集に関わる地名マップづくりを通して万葉集が由来となった地名の例を探る学習活動を行う。万葉集に関わる地名の例のひとつとして、愛知県の「あいち」という地名の由来は万葉集がもとになっている。高市連黒人(たけちのむらじくろひと)が詠んだ「桜田へ鶴鳴き渡る年魚市潟潮干にけらし鶴鳴き渡る」(巻三)であるが、この「年魚市潟」は「あゆちがた」と読み、名古屋市熱田区、南区の当時海岸であった一帯を指している。この「あゆち」が転じて「あいち」となり、今の愛知県となっている。他にも、和歌山や千葉といった都道府県名や神奈川県箱根、福岡県北九州市戸畑や企救郡、千葉県市川市真間などの地名も万葉集が由来となっている。また、旧国名も万葉集には登場する。このように万葉集が由来となった地名や万葉集に登場する旧国名の例を生徒たち自身が探究し、それを『過去-現在-未来をつなげる Man-you-syu』～万葉集に関わる地名マップづくりを通して～にまとめる活動を行う。このマップは万葉集が地名の由来となった場所や万葉集で詠まれた地名の場所について、万葉歌や作者、歌に込められた思いなどをカードにし、日本地図にまとめたものである。万葉集という過去の歌集に収められている歌がもとになった地名が現在も存続している。また、生徒たちは今後様々な地域を訪れたり住んだりすることもあり、その地名も万葉集が由来となっているかもしれない、万葉集で詠まれているかもしれないと考えて調べるようになるかもしれない。このこと

で、万葉集がもともになった地名を探ることで過去—現在—未来のつながりがみえてくる。

万葉集という古典歌集を学ぶ国語科の視点と地名の謎を地理学的に探究する社会科の視点からアプローチされた教科横断的な学習ができる。同時に、総合的な学習の時間における探究課題として、大和地域の伝統である万葉集の文化の良さとその継承に力を注ぐ人々の思いについても学習していく中で生徒たちが気づくことができるような単元であると考えられる。万葉集を通して、当時の人々と対話したい。また、日本全国各地に「万葉歌碑」が建てられている。万葉歌碑とは、万葉歌本文やその解説などが記されている石造物であり、その万葉歌が詠まれた場所や記されている歌にゆかりのある場所に建てられていることが多い。万葉歌碑も頼りに万葉集に関わる地名の場所を探究できればと考える。

(2)生徒観

奈良県で暮らす生徒たちにとって、万葉集は非常に身近な存在である。国語の時間等で2時間ほど万葉集を学習する機会があり、万葉集自体は知っている。特に奈良の有名な歌は知っている。しかし、「他に何かを知っているか？」と聞かれたら多くの生徒は知らないと答える。歌に込められた思いや場所等の情景を知らずにいる生徒が多くいる。そのため、万葉集への関心がもてずにいるのである。中学校3年生であるため、高校受験をすぐに控える生徒たちが多く、「入試で出題されない＝学ぶ意味がない」と感じていることもあるだろう。しかし、大切なことは今後の人生に生きて働く知識を修得させることであると考えられる。万葉集という歴史文化を学ぶことも生きて働く知識の1つになるだろう。中には、万葉集に強い関心を持ち、休日には奈良県立万葉文化館などの場所に通り、日々勉強している生徒もいる。そのような生徒を中心に、周囲の生徒たちも関心がもてるように工夫して指導していく必要があると考える。

(3)指導観

本単元は全8時間で、中学校3年生第1学期中の総合的な学習の時間を用いて実施するように設定した。

第1次では、まず学習の見通しをもつ。次に「桜田へ鶴鳴き渡る年魚市瀉潮干にけらし鶴鳴き渡る」(巻三)の万葉歌碑を紹介し、「あいち」の地名の由来となっていることを紹介する。また、いくつかの万葉集で詠まれた旧国名も紹介する。その他にも万葉集に関わる地名の場所があるかもしれない、万葉集が由来となった地名があるのではないかという探究心を養う。次に地名が詠まれた万葉集とその場所について調べる。自分の住んでいる地域の地名や関心のある地域の地名は万葉集が由来となっているのかを中心に調べていく。細かい地域の地名まで踏み込むことは難しいため、都道府県や市町村といった大きなスケールで調べられるようにしたい。

第2次では、本単元名にもあるように『過去-現在-未来をつなげる Man-you-syu』～万葉集に関わる地名マップづくりを通して～を用いて表現する活動を行う。万葉歌碑風カードにはどのような事柄を掲載するのか、マップを見る人をイメージして考えられるように指導する。まず個人で万葉歌碑風カードを作成する。次にペアやグループでの活動を通して推敲する。最後に日本地図に表現し、全体で交流する。

第3次では、第2次で作成した『過去-現在-未来をつなげる Man-you-syu』～万葉集に関わる地名マップづくりを通して～」を中学校体験入学で、小学校6年生に発信する。最後に、小学生から「Man-you-syu ポイント」をつけてもらい、自分たちのまとめや紹介の仕方について評価してもらう学習を行う。

このような学習を行うことで、万葉集をあまり知らず、関心がもてずにいた生徒を万葉集の世界へと誘い込み、万葉集自体の価値を感じることができるようになるのではないだろうか。指導計画にはないが、未来次として、2つの目標がある。1つは今後もあらゆる地名に着目することである。生徒たちはこれから様々な地域を訪れたり住んだりするだろう。万葉集からに限らず、その場所の地名の由来は何からきているのかを考えるきっかけになればと考える。もう1つは万葉集が由来となっているものを見つけることである。万葉集が由来となっている地名以外の分野（食べ物や花など）を今後生徒たちが調べるようになればさらに良い学習となるのではないだろうか。万葉集が過去—現在—未来を見つめる道具として活用できることに意義があると考えられる。

(4)ESD との関連

・ 本学習で働かせる ESD の視点（見方・考え方）

○多様性

万葉歌は様々な人が、様々な内容を、様々な場所で残している。

○相互性

万葉集は約1400年の時を越えて現在まで地名という形でもつながっている。

・ 本学習で育てたい ESD の資質・能力

○未来像を予測して計画を立てる力

万葉集に関わる地名を大切にし、未来につなげる計画を立てる。

○コミュニケーションを行う力

万葉集を通して、当時の人々と対話したり、現代の人々と交流したりする。

○つながりを尊重する態度

これまで受け継がれてきた万葉集を、先を見通してこれからの世代に受け継ぐ。

・ 本学習で変容を促す ESD の価値観

○文化多様性の尊重

約1400年前の飛鳥時代から受け継がれてきた文化を尊重し守っていく。

・ 達成が期待される SDGs

4.質の高い教育をみんなに

万葉集という文化を持続可能な開発への教育を通して、伝承を促進するために必要な知識及び技能を習得できるようにする。

(4.7 文化の持続可能な開発への貢献の理解)

11.住み続けられるまちづくりを

万葉集に関わる地名があるということを知ったことから、先人の知恵や思いが受け継がれてきた万葉集や地名・地域を保全・活用する。

(11.4 文化遺産の保護・保全)

4. 単元の評価規準

| ア 知識・技能 | イ 思考・判断・表現 | ウ 主体的に学習に取り組む態度 |
|--|--|--|
| ①万葉集に関わる地名や万葉集が地名の由来となった場所があるということを知り、その分布や根拠などについて理解しようとしている。 | ①作成したマップを見る人をイメージして、マップにどのような情報を掲載するかを考えようとしている。 ②地名が詠まれている万葉集の概要や作者の思いを相手に伝えようとしている。 | ①万葉集のすばらしさに触れようとしている。 ②万葉集に関わる地名について、自ら進んでカードやマップを作成しようとしている。 |

5. 単元の指導計画（全8時間）

| 次 | ○主な学習活動 | ・学習への支援 | △評価 |
|--------------|---|--|--|
| 1 2 時間 | ○学習の見通しをもつ。 | ・「桜田へ鶴鳴き渡る年魚市潟潮干にけらし鶴鳴き渡る」の万葉歌碑の写真を提示する。この句が「あいち」の由来となったことを紹介し、子どもの意欲を高める。 | △ア① (発言・振り返りシート) △ウ① (発言・振り返りシート) |
| | 地名が詠まれた万葉集を探そう | | |
| | ○万葉集に関わる地名とその場所について調べる。 | ・書籍やインターネットを用いて調べる。 | △ア① (ノート) (発言・ノート) |
| 2 | 万葉集に関わる地名を見つけよう | | |
| 3 時間 | ○『『過去-現在-未来をつなげる Man-you-syu』～万葉集に関わる地名マップづくりを通して～』を作成する。 | ・万葉歌碑風カードに以下の内容を記す。 万葉歌・詠まれた地名の場所・歌の意味・作者・思い | △イ① △ウ② (万葉歌碑風カード) |
| | ○『『過去-現在-未来をつなげる Man-you-syu』～万葉集に関わる地名マップづくりを通して～』を交流する。 | ・完成したマップを全体で確認し、推敲する。 | △イ② △ウ① (マップ・万葉歌碑風カード) |
| 3 | ○完成した『『過去-現在-未来をつなげる Man-you-syu』～万葉集 | ・自分たちのまとめや紹介の仕方について考慮し、発表する | △イ② △ウ① |

| | | | |
|-------------|--|--|--------------------------|
| 3 時 間 | <p>に関わる地名マップづくりを通して～」を小学生に発信する。</p> | <p>よう促す。</p> | <p>(マップ・万葉歌碑風カード)</p> |
| | <p>中学校体験入学で、小学校6年生に発信しよう</p> | | |
| | <p>○小学生に「Man-you-syu ポイント」をつけてもらう。</p> | <p>・自分たちが選んだ万葉集の紹介や説明カードについて評価してもらうことで、今回の学習を振り返る。</p> | <p>△イ② (振り返りシート)</p> |

指導：石田通大（奈良市立都跡小学校）